

走錨事故防止ガイドライン (小型内航船用)



○ 近年、台風等来襲時には、走錨した船舶が周辺施設へ衝突する事故や船舶同士の衝突事故が発生!

重要

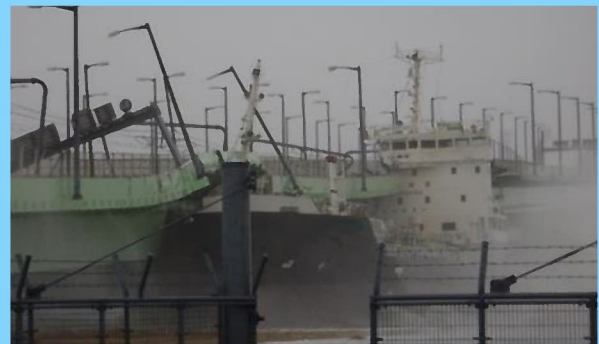
このような事故を防止するには、**船の乗組員による対応が基本**ですが、海運事業者の社長(経営トップ)から現場の船長・乗組員まで一丸となった**安全管理体制**による**走錨対策が重要!**

小型内航船の船長へのお願い



重要

これまでに経験したことのない規模や勢力の台風等が日本沿岸に多数来襲することが予想され、これまでの**台風等対策の常識が通じない**ことも十分ありえます。『**走錨は起こりうる**』との認識の下、**危機感をもって事故防止への備え**をお願いします。



関西国際空港連絡橋に衝突した貨物船

普段からの備え

○ 船長は、荒天時の乗組員の責任・役割分担等の船内体制確保、荒天への対応方法等について、**船舶所有者、船舶管理会社等と事前に十分協議**しておいて下さい。

台風等接近時の対応

台風等の強風域に入る数日前から

重要

船長は、**最新の気象・海象情報**を入手し、**時間的余裕**を持って**避難を開始**してください。



○ 避難海域や避難のタイミング等については、運航管理者等から十分助言を得て決定してください(荷役計画の変更等について、荷主企業等へお願いすることも検討してください)。

- 船長は、**バラスト**等の**調整**により、喫水を深くしてください。また、積荷等の固縛、開口部閉鎖、揚錨装置・主機関等の作動確認等の**荒天準備**を行ってください。

台風等避泊時の船舶の対応



- 走錨の起きにくい**適切な錨地**及び**錨泊方法**を選択してください(右面参照)※錨鎖は、安全サイドに立ってできるだけ長く伸出!



重要

レーダー、GPSプロッター等により、**自船の船位、錨泊状況**等の**監視**、気象・海象の把握、国際VHFの常時聴取等を行ってください。

必ず、主機関等を直ちに使用できる状態に！！

重要

船体が徐々に風下に流される場合、主機関等を使用し、船首を風に立て、**船位を保持**してください。
※本格的な走錨が始まってからでは船体を制御できない!

- 船位保持が難しい場合は、**転錨**や**別な海域への移動**等、時期を失することなく**適切な対応**を取ってください。



自船の位置等を常に把握し、

走錨を早期に検知!

走錨の可能性がある場合には、

早め早めの対応を!!



台風等が接近する際、港長等は、港則法に基づき、港外避難勧告、走錨対策強化勧告等を発出します。合理的な理由なく勧告に従っていないと認められる船舶に対しては、その状況に応じ、個別に勧告、命令(罰則あり)を発出することがあります。

適切な錨地及び錨泊方法を選択するための考慮事項

- ① 気象・海象(予報)情報
台風等の最新の位置・進路・速力等
- ② 自船の状態
積荷の有無、喫水
- ③ 錨地のしゃへい性、水深、底質、
潮流、外洋からのうねり等の影響
- ④ 他の錨泊船の状況
- ⑤ 錨地周辺の社会的重要施設
海上空港、LNGバース等
- ⑥ 単錨泊、双錨泊等の錨泊方法毎のメリット・デメリット(裏面参照)
- ⑦ 港長等からの港外避難勧告等の発出状況



防波堤に乗揚げた船舶







重要 適切な錨泊方法の選択

- 錨等の把駐力を十分に確保するためには、**両舷の錨**を使用し(**最大風速となる風向**に応じて投錨する必要あり)、**錨鎖**をできるだけ**長く伸出**する必要があります。
- しかし、風向・風速が急速に変化する台風等通過時においては、**錨鎖が絡んだり揚錨が困難**となる**危険性**があります。
- 単錨泊をした場合であっても、最新の気象・海象に基づき、安全に作業が可能な時間帯に、**最大風速となる風向**に応じた**錨泊方法への移行**(2つ目の錨の使用等)を検討してください。
- 錨泊方法については、このガイドラインに記載の様々な事項を考慮し、**船長が最終的に決定**してください。



錨地及び錨泊方法の選択に役立つ各海域(港)の地域的情報を、各海域(港)最寄りの海上保安庁の事務所や地方運輸局で配布しています。本ガイドラインとともに、船橋に備え置いてください。

錨泊方法毎のメリット・デメリット

錨泊方法	メリット	デメリット
単錨泊 ・最も頻度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 強風時でも、錨を揚げる事が可能 風向の変化に合わせて、他の錨泊方法への移行が可能 	<ul style="list-style-type: none"> 他の錨泊法と比べて把駐力が弱い
単錨泊 (振れ止め) 	<ul style="list-style-type: none"> 船首の振れ回り抑制に効果 風があまり強くない範囲で有効 	<ul style="list-style-type: none"> 風向の変化により錨鎖が絡む からんだ場合、自船で直すことは困難 強風時に、錨を揚げる事が困難
二錨泊 	<ul style="list-style-type: none"> 把駐力の向上 一方向からの強烈な風浪や流れに有効 	
双錨泊 風向きが変わった場合は、単錨泊の状況と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 船首の振れ回り抑制に、大きな効果 	

走錨事故防止に役立つ情報



走錨事故防止ポータルサイト

(海上保安庁交通部航行安全課)

<https://www.kaiho.mlit.go.jp/mission/kaijyoukoutsu/soubyo.html>

走錨事故防止に役立つ以下のような情報を掲載しています。

- ・台風進路図、外洋波浪予想図
- ・東京湾、伊勢湾、瀬戸内海の錨泊船舶の状況図
- ・灯台等で観測した風向・風速等に関する情報
- ・投揚錨作業と事故防止、台風を錨泊避航した状況等、船員教育に役立つ動画情報 等々



事故発生時には、国際VHF、118番等により、最寄りの海上保安庁の事務所へ連絡ください。



R2.3 作成